【岐阜県】　幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業（文部科学省委託事業）

R5.5時点

事業実施の目的	岐阜県では、令和４年３月に改訂した「岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン」に基づき、「つなぐ・高める・支える」幼児教育を推進する。その具現のため、組織を整え、本事業に取り組む。 〈つなぐ〉幼児教育と小学校教育とをつなぐ取組の強化 〈高める〉遊びを通した指導の充実と保育内容の評価・改善、教職員の資質及び専門性の向上 〈支える〉多様な幼児への支援の充実、家庭教育・子育て支援体制の整備 岐阜県幼児教育アクションプラン

事業内容・成果（Ｒ４年度）

１．主な取組内容について

【架け橋期のカリキュラム開発会議】

右図のように組織を整え、全体会を１回、ワーキンググループを２回、地区別カリキュラム開発会議を２回実施した。

【架け橋期のカリキュラム】

ワーキンググループでは、５領域と「特別な支援」について６つの接続期カリキュラムを開発した。育みたい資質・能力を幼児・児童の姿から捉えて明らかにするとともに、指導する事項や留意すべき事項を分かりやすく記述し、どの世代の教職員にも架け橋期の指導の見通しをもつことができるよう、領域等毎に１枚にまとめた。

【園・小学校における体制】

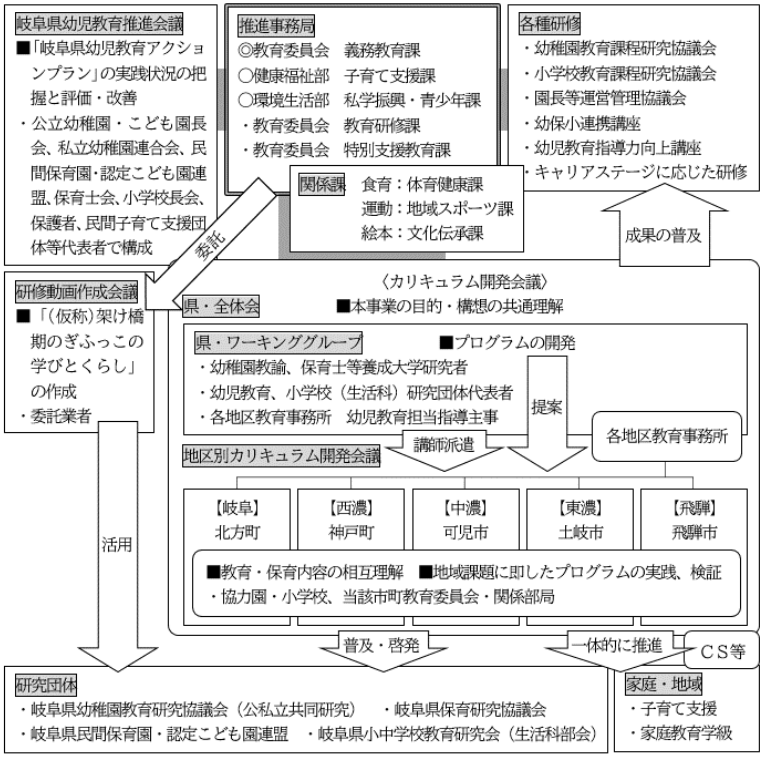
協力園・小学校においては、当該市町教育委員会等関係部局の指導のもと、地域の実態に即した接続期カリキュラムの開発や幼保小の連携を実施した。例えば、学園構想を掲げている地区（園・小学校）では、０歳から１５歳までを見通した１５年間カリキュラムと架け橋期を取り出した接続期カリキュラムの開発に取り組んだ。

【自治体における体制】

協力園・小学校に大学研究者等を派遣し、地域の課題に即した研修を行った。

２．主な成果について

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児・児童の姿について協議し、保育・教育内容の相互理解を図ることができた。
・地区（園・小学校）として共に育みたい幼児・児童像を明らかにし、カリキュラムの方向性を見出すことができた。



【幼保小の架け橋プログラム　組織図】

事業実施地域・協力園校（Ｒ４年度）

北方町（公：小１、幼１、保４　私：幼１）
神戸町（公：小１、幼保１）
可児市（公：小１、幼１、保１　私：幼１、こ１）
土岐市（公：小１、幼１、保１）
飛騨市（公：小１　私：保１）

今後の目標（Ｒ５年度）

・協力園・小学校から県内全ての園・小学校へ、架け橋期の重要性と指導の見通しが共有されるよう、引き続き、幼保小の架け橋プログラムを推進していく。
・接続期カリキュラムの見直しを進めながら、教職員向け研修動画を作成する。

【岐阜県】 架け橋期のカリキュラム（案）

R5.5時点

〈既存の資料の活用〉

岐阜県では、平成３０年３月に、「育ちや学びがつながる・深まる岐阜県版接続期カリキュラム」を作成し、各園・小学校におけるカリキュラムの整備を進めてきた。

本事業においても、既存の資料を基に開発・実践を進める地区（園・小学校）が多い。

岐阜県版接続期カリキュラム

		幼児期
月		４月～５月
ねらい		
視点	【自ら学ぶ力】 ・思考力の芽生え ・数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現	
	【人と関わる力】 ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え	
	【生活する力】 ・健康な心と体 ・社会生活との関わり ・自然との関わり・生命尊重	
主な活動		
小学校に向けての気持ち		
子どもへの配慮		
家庭・地域との連携（家庭○・地域☆）		

〈５領域と「特別な支援」について開発したカリキュラム〉

県内の幼稚園教諭、保育士等養成大学から１３人の研究者を招聘し、ワーキンググループを編成した。そして、５領域と「特別な支援」について６つの接続期カリキュラムを開発した。当カリキュラムを活用し、各地区（園・小学校）は、自園・校のカリキュラムの見直しを進める。

地区（園・小学校）として共に育みたい幼児・児童像を明らかにし、相応しい様式で作成する。